

1



2



3



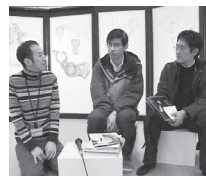
4



5



6



7



8

## コクーン Cocoon

2006.12.5 – 2006.12.10

薫蒸による閉館期間、6日間にわたり、隣接する能楽美術館の研修室において、ファブリス・イベルの《コクーン》を展示した。これはテレビスタジオ兼放送局として作られた、20枚の衝立が円形に取り囲む作品である。内部で毎日トークや来場者へのインタビューを行い、収録した映像やアトライブラリー所蔵のビデオを会場内のモニターで上映した。来場者のサロンのような場として機能した。

(鷺田めるろ)

While the museum was closed for fumigation, Fabrice HYBERT's *Cocoon* was installed in a lecture room at the adjacent Kanazawa Noh Museum for six days. *Cocoon* consists of 20 standing screens placed in a circle to form a TV studio or broadcasting station. Inside, there were daily talks plus interviews with visitors and suchlike, and the recorded footage was screened on a monitor in the venue. The work functioned as a kind of salon for visitors.

(WASHIDA Meruro, translated by Pamela MIKI)

1. ファブリス・イベル《コクーン》

Fabrice HYBERT, *Cocoon*

2-7. 《コクーン》の中では、講座やゼミ、談話室を毎日実施

Daily lectures and discussions were held inside the *Cocoon*.

8. 収録したインタビュー等を上映

The recorded footage was screened.

### プログラム

12月5日=インタビュー「小川信治」(平芳幸浩)、談話室「角永和夫」(小西見治)、談話室「木村太陽」(細川令子)、ゼミ「ファブリス・イベル」(鷺田めるろ)、インタビュー「金沢美術工芸大学メガネ部」(南野智之、飯田都、横関亮太)／12月6日=インタビュー「東京ステーションギャラリー」(成川隆、菅田匠)、ゼミ「岸本清子」(村田大輔、ゲスト: 飯田慈子)、談話室「能登」(姥浦千重、奈良雄一)／12月7日=ゼミ「トニー・クラッグ」(鷺田)／12月8日=インタビュー「アーミッシュ」(大藪千穂)、談話室「松井康成」(林朋子)、ゼミ「嵯峨篤」(不動美里)／12月9日=インタビュー「アースデイ」(安野正紀、間塚康代)、講座「加賀伝来の名碗」(藪下宏)、ゼミ「アトリエ・ワン」(鷺田)／12月10日=講座「能の楽しみ」(藤島秀隆)